

## 創造的脱皮のために

今年の干支は「癸巳<sup>みずのとみ</sup>」です。動物では「蛇」に例えられます。1月4日、仕事始め式の挨拶で、私は、「一昨年、昨年と職員による不祥事が続きましたが、私をはじめ、市役所職員一同、蛇が脱皮をするがごとく、生まれ変わった新たな気持ちで業務に取り組み、市民の皆様の期待に応えていただきたい」と訓示をしました。

併せて、「独創指向」、「未来志向」、「世界指向」の3つの指向を心がけ、「男女間連帯」、「世代間連帯」、「地域間連帯」の3つの連帯を意識してほしい、ということをお話しました。これは、社会保障制度や税財政制度をいかに改革して行くべきかを議論する時に、よく引き合いに出されるスウェーデンの国家戦略として、研究者が紹介していたもの（注）を私なりに解釈し、整理し直したものです。スウェーデンは、50年以上前に世界で初めての付加価値税を導入して以降、さまざまな試行錯誤を行いながら、「強い財政」と「強い福祉」を両立させ、経済発展も遂げてきた世界でも有数の福祉国家として知られています。

3つの指向のうち、「独創指向」とは、目標を実現するのにもっとも適切と思われる施策を、他の真似をするのではなく、自らの頭でとことん考えようということです。「未来志向」とは、将来ビジョンを見据え、そこからバックキャストिंगして、今成すべきことは何かを考え、実践しようということです。「世界指向」とは、既存の我が国の現行制度だけをよしとせず、世界の優良事例を紐解きながら自らを変えていく、その視野の広さを常に持とう、ということです。

人口減少、超高齢化社会という現実をマイナスに捉えるのではなく、活力を失わずに希望をもって次の世代にこの街を引き継いでいくために、この3つの指向と3つの連帯を常に心がけて仕事に当たっていただきたいとお話しました。そうすることにより、私が二期目のマニフェストのテーマとした「高松クリエイティブ・イノベーション」、日本語で巳年にちなんで言えば、高松の「創造的脱皮」が図られるものと確信しています。

（注）早稲田大学教授 岡澤憲英氏講演録「第36回行財政研修会東京セミナー講演シリーズ 福祉社会を考える」（一般社団法人 地方行財政調査会）